

夜の蝉

松岡隆子

遠の木の高きに梅雨の明くるらし
一水の蒼し迅しよ夏落葉
眼濡らして万緑を抜けきたる
水飲んで大暑の息を整ふる
夏蝶も少年の背も見失ふ
妹に持たせて帰る捕虫網
夏萩のゆふべの風へ歩を返す

日の暮は何か忘るる合歡の花
蜻蛉の失せたる空の昏るるのみ
やり残すことのあれこれ夜の蟬
額を打つ雨のひと粒夏終る
飛石の歪を踏んで八月へ

「当たり前前の日常は決して当たり前前ではないことに気付かされました」。先日
の広島平和記念式典でこども代表の澄んだ声が青空に響いた。誰もがそう思
い誰もが言っている言葉であるが、少年少女の澄んだ声を通して聴くと新鮮な
言葉に思えた。この言葉は永遠に言い古された言葉にはならないだろう。平凡
な日常は時に平凡ではなくなる。今まさに私たちは平凡な日常を失っている。
取り戻すには時間がかかりそうだが、明日を信じて出来ることから一つ一つ慎
重にやっっていこうと思う。